

令和4年度厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)
管理栄養士養成施設における管理栄養士の卒前・卒後教育の充実に向けた研究
分担研究報告書

管理栄養士養成大学卒業生における教育及び臨地実習に関する調査

研究代表者	中村 丁次	神奈川県立保健福祉大学
研究分担者	鈴木 志保子	神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部栄養学科
研究分担者	上西 一弘	女子栄養大学栄養学部実践栄養学科
研究分担者	村山 伸子	新潟県立大学人間生活学部健康栄養学科
研究協力者	飯田 綾香	神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部栄養学科
研究協力者	片岡 沙織	神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部栄養学科
研究協力者	中西 朋子	神奈川県立保健福祉大学特別研究員

研究要旨

【目的】本研究では、管理栄養士養成大学を卒業した者を対象として、管理栄養士の認知度、管理栄養士養成大学入学のきっかけ、および臨地実習の状況を把握し、管理栄養士養成大学における教育の更なる充実化を図るための方策案を作成することを目的とした。

【方法】本研究における対象者は、2022年3月に管理栄養士養成大学(以下、「養成校」とする。)を卒業した者(2022年4月1日現在、22歳以上、新卒1年目)とした。調査期間は2022年9月1日から2022年10月15日とした。調査方法はwebアンケートフォームを利用したweb調査とした。調査内容は、「基本属性」、「養成校入学前の管理栄養士の認知度・資格取得のきっかけ・受験時の状況」、「臨地実習に対する意識」、「卒業した養成校に対する意見」とした。

【結果】管理栄養士の存在は中学生の時に知った者が最も多く(110人(29.6%))、管理栄養士を知るきっかけは「保護者」が最も多かった(123人(33.2%))。養成校を志望した時期は高校3年生が最も多く(148人(39.9%))、養成校を志望した理由(複数回答)は、「食事や栄養に関心があるから」(292人(78.7%))、「国家資格が取得したかったから」(229人(61.7%))が半数を超えていた。臨地実習の実施状況は、給食経営管理論、臨床栄養学、公衆栄養学のいずれの実習においても「対面で実施した」との回答が最も多かったが、公衆栄養に関する臨地実習は、4割程度がオンラインのみで実施していた。臨地実習の満足度は、「全く満足していない」を0、「非常に満足している」を10として回答を求めたところ、給食経営管理は 7.0 ± 2.3 、臨床栄養は 7.2 ± 2.3 、公衆栄養は 6.3 ± 2.2 であった。入学した養成校を卒業してよかったか否かについて、10「非常に満足している」と回答した者が最も多かった。養成校のカリキュラムに対する意見で最も多かったものは「今のままでよい」(149人(40.2%))であったが、指摘事項として最も多かったものは「時間割の過密さ」(129人(34.8%))であった。現在の進路の満足度は、「全く満足していない」を0、「非常に満足している」を10として回答を求めたところ、現在の進路の満足度は 6.4 ± 2.3 であった。対象者が考える、管理栄養士資格又は管理栄養士に対して魅力を感じるために求められる授業や機会(チャンス)を調査したところ、最も多かった回答は「現場の管理栄養士とのふれあい」(259人(69.8%))であった。

【考察】管理栄養士の存在は中学生の時に把握する者が最も多かったこと、憧れの管理栄養士の存在は非常に低かったこと、養成校を卒業した者が、現在養成校に在学している者が管理栄養士の魅力を感じる方策として7割程度が「現場の管理栄養士とのふれあい」と回答したことなどから、中学生や小学生に対して、現場で生き生きと管理栄養士の存在を示すことが管理栄養士に対する認識を高めること、養成校においても、積極的に現場で活躍している管理栄養士と触れ合う機会を設定することが、管理栄養士が管理栄養士資格に魅力を感じるができることなどが考えられた。また、入学する養成校は、当該校の国家試験合格率を最も重要視しているのに対し、教えを受けたい教員の存在などはほとんど意識されていないことから、教育内容よりも国家試験の取得が入学の第一義となっていることが明らかとなった。臨地実習に対する認識・評価では、オンラインのみ、オンラインと対面の併用による実施が対面での実施に比べ満足度および現在の進路への影響が低いことが明らかとなったことから、臨地実習は対面での実施が望ましいこと、対面で実施することが困難な状況下では、教育方法や教育内容を十分に検討することが求められると示唆された。

A. 研究目的

管理栄養士は、栄養士法により、「厚生労働大臣の免許を受けて、管理栄養士の名称を用いて、傷病者に対する療養のため必要な栄養の指導、個人の身体の状況、栄養状態等に応じた高度の専門的知識及び技術を要する健康の保持増進のための栄養の指導並びに特定多数人に対して継続的に食事を供給する施設における利用者の身体の状況、栄養状態、利用の状況等に応じた特別の配慮を必要とする給食管理及びこれらの施設に対する栄養改善上必要な指導等を行うことを業とする者をいう。」と定義されている¹⁾。平成12年には管理栄養士が登録から免許になり、業務が明確に規定されたこと、平成17年には「栄養マネジメント加算」、平成22年には「栄養サポートチーム加算」と、様々な施策が導入され、医療・介護領域をはじめとして、管理栄養士の職務のあり方は大きく変化している。

管理栄養士を養成する管理栄養士養成施設は年々増加しており、平成12年は41校、平成14年は75校であったものが²⁾、平成30年は148校²⁾、令和2年は152校であり³⁾、管理栄養士名簿登録者数（累計）は、令和2（2020）年12月末時点で254,223名である⁴⁾。

このように、管理栄養士を取り巻く環境は大きく変化し、管理栄養士養成施設および管理栄養士登録者数は年々増加の様子を見せているが、管理栄養士養成施設における教育が管理栄養士にとって望ましいものとなっているか否かについては、これまでに明らかにされていなかった。管理栄養士は管理栄養士国家試験に合格することが必須であることから、管理栄養士養成施設における教育は、国家試験に合格することが第一義となる傾向にあることも報告されている⁵⁾。管理栄養士の資質の向上、および現場で活躍できる管理栄養士を養成するためには、管理栄養士養成施設における教育を充実させることに加えて、管理栄養士養成施設を卒業後に求められる教育を把握することが必要である。しかし、これまでに、管理栄養士養成施設を卒業した者に、管理栄養士に対する意識、管理栄養士養成施設における教育、卒業後に求められる教育などの実態は調査されてこなかった。

そこで、本研究では、管理栄養士養成大学（以下、「養成校」とする。）を卒業した者を対象として、管理栄養士の認知度、養成校入学のきっかけ、および臨地実習の状況を把

握し、養成校における教育の更なる充実化を図るための方策案を作成することを目的とした。

B. 研究方法

1. web 調査

(1) 調査対象者

本研究における調査対象者は、2022年3月に養成校を卒業した者（2022年4月1日現在、22歳以上、新卒1年目）とした。web調査は、本研究における研究責任者および研究分担者の所属する養成校の卒業生を中心に調査を依頼し、371名から回答が得られた。

(2) 調査期間および調査方法

調査期間は2022年9月1日から2022年10月15日とした。調査方法はwebアンケートフォームを利用したweb調査とした。

(3) 調査内容

調査内容は、「基本属性」、「養成校入学前の管理栄養士の認知度・資格取得のきっかけ・受験時の状況」、「臨地実習に対する意識」、「卒業した養成校に対する意見」とした。詳細は表1に示した。

(4) 倫理的配慮

本研究は、神奈川県立保健福祉大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した(保大第5-22-4)。

2. 養成校の基本情報調査

本研究では、web調査対象者が卒業した養成校における基本情報を調査した。基本情報の調査内容および調査方法は以下のとおりである。

(1) インターネット等から収集した情報

① 養成校の種別

本件研究で調査した養成校の種別(国公立大学/私立大学、共学/女子大学)は、旺文社の教育情報センターのホームページ及び各対象施設のホームページからデータを収集した。

② 養成校入学定員数

養成校入学定員数は、厚生労働省のホームページから収集した。

③ 管理栄養士国家試験受験者数及び合格者数

管理栄養士国家試験受験者数及び合格者数は、医歯薬研修協会のホームページから収集した。

④ 養成校のカリキュラム

養成校のカリキュラムに関するデータとして、管理栄養士国家試験受験資格取得の

卒業要件の有無、管理栄養士国家試験受験資格取得のための最低臨地実習単位数及び給食経営管理、臨床栄養、公衆栄養に関する臨地実習の取得可能単位数をそれぞれ養成校のホームページおよびシラバスから収集した。

(2) 収集した項目から算出したデータ

(1)で収集したデータから、養成校別の管理栄養士国家試験受験率および合格率を算出した。

① 管理栄養士国家試験受験率

養成校別の管理栄養士国家試験受験率は、以下の計算式で求めた。

管理栄養士国家試験受験者数(人)/入学定員数(人)×100

② 管理栄養士国家試験合格率

管理栄養士国家試験合格率は、以下の計算式で求めた。

管理栄養士国家試験合格者(人)/管理栄養士国家試験受験者数(人)×100

3. 統計処理

基本統計量は平均値±標準偏差 (SD) で示した。すべての統計解析は、統計パッケージ IBM SPSS Statistics ver. 24.0 for Windows (日本アイ・ビー・エム株式会社、東京) を用いて実施した。有意水準は $p < 0.05$ に設定した。

C. 研究結果

調査対象者の基本属性は、表 1 に示した。

1. 調査対象者が所属していた養成校の特徴

調査対象者が所属していた養成校数は 91 校であった。回答が得られた養成校の特徴は、表 2 に示した。

2. 養成校に入学する前の意識

調査対象者が養成校に入学する前の管理栄養士に対する意識は表 3 に、養成校の受験の意識は表 4 に、それぞれ示した。

管理栄養士の存在は、中学生の時に知った者が最も多く、(110 人 (29.6%))、管理栄養士を知るきっかけは「保護者」が最も多かった (123 人 (33.2%))。養成校に入学する前に懂れていた管理栄養士は 9 割程度が存在せず、管理栄養士資格の取得は、他者から勧められた者が半数を超えていた。養成校を志望した時期は高校 3 年生が最も多く (148 人 (39.9%))、養成校を志望した理由 (複数回答) は、「食事や栄養に関心がある

から」(292 人 (78.7%))、「国家資格が取得しなかったから」(229 人 (61.7%)) が半数を超えていた。養成校に入学する前に考えていた大学卒業後の進路 (職域) は、「医療」(132 人 (35.6%)) が最も多かった。

養成校の志望度は、95%以上が第一志望であり、入学する養成校を決めた理由 (複数回答) は、「管理栄養士国家試験の合格率の高さ」が最も多かった (144 人 (38.8%))。

3. 臨地実習の状況

調査対象者が履修した臨地実習の状況は、表 5 に示した。

臨地実習の実施状況は、給食経営管理論、臨床栄養学、公衆栄養学のいずれの実習においても「対面で実施した」との回答が最も多かったが、公衆栄養に関する臨地実習は、4 割程度がオンラインのみで実施していた。

臨地実習の満足度は、「全く満足していない」を 0、「非常に満足している」を 10 とし、回答を求めたところ、給食経営管理は 7.0 ± 2.3 、臨床栄養は 7.2 ± 2.3 、公衆栄養は 6.3 ± 2.2 であった。また、臨地実習の必要性は、「全く必要ない」を 0、「非常に必要である」を 10 とし、回答を求めたところ、給食経営管理は 8.2 ± 1.9 、臨床栄養は 8.6 ± 1.6 、公衆栄養は 6.8 ± 2.3 であった。

臨地実習の現在の進路への影響は、給食経営管理および臨床栄養は「よい影響をおよぼした」との回答が最も多かった。一方、公衆栄養は「影響はなかった」との回答が最も多かった。

臨地実習で修得した単位数 (臨地実習期間) は、全ての臨地実習において 2 割弱の者が「分からない」と回答していた。

4. 養成校に対する意見

入学した養成校を卒業してよかったか否かについて、「全く満足していない」を 0、「非常に満足している」を 10 とし、回答を求めた。得られた結果は図 1 に、養成校のカリキュラムに対する意見 (複数回答) は表 6 に、それぞれ示した。入学した養成校を卒業してよかったか否かについて、10「非常に満足している」と回答した者が最も多かった。養成校のカリキュラムに対する意見で最も多かったものは「今のままでよい」(149 人 (40.2%)) であったが、指摘事項として最も多かったものは「時間割の過密さ」(129 人 (34.8%)) であった。

5.現在の進路の満足度について

現在の進路の満足度は、「全く満足していない」を0、「非常に満足している」を10として回答を求めた。調査対象者の現在の進路の満足度は、図2に示した。現在の進路の満足度は6.4±2.3であった。

6.管理栄養士の魅力を感じるための授業や機会の提案

対象者が考える、管理栄養士資格又は管理栄養士に対して魅力を感じるために求められる授業や機会(チャンス)に関する提案を複数回答で調査した。その結果、最も多かった回答は「現場の管理栄養士とのふれあい」(259人(69.8%))であり、これに「臨地実習の施設の充実」(158人(42.6%))、「座学ではない授業の充実」(153人(41.2%))と続いた(表7)。

D. 考察

本研究は、養成校を卒業した者を対象として、管理栄養士の認知度、養成校入学のきっかけ、および臨地実習の状況を把握し、養成校における教育の更なる充実化を図るための方策案を作成することを目的とした。

1.現在の所属状況

対象者の現在の職域は、「医療」や「高齢者福祉施設」、「受託給食会社」および「企業」が9割程度を占めていた。公益社団法人日本栄養士会が公表している2019年度管理栄養士養成施設卒業者の就職状況では、上記の4領域に就職している者は8割程度であることから⁶⁾、本研究で得られた結果は、概ね管理栄養士全体の意見を反映しているものと考えられた。

2.養成校入学の志望の背景

管理栄養士の存在を知った時期は「中学生」が最も多く、そのきっかけは「保護者」が最も多かった。入学前に憧れていた管理栄養士は9割程度が存在していなかった。管理栄養士資格の取得は他者に勧められたものが半数を超え、そのほとんどが保護者からの勧めで管理栄養士の資格を取得しようと考えていた。養成校を卒業した者が、在学生(後輩)が管理栄養士資格または管理栄養士に対してより魅力を感じる方策として

は、「現場の管理栄養士とのふれあい」が7割程度と求める者が多かったこと、管理栄養士資格は他者からの勧めでその取得を意識することから、中学生や小学生といった児童・生徒およびその保護者に対して、管理栄養士の仕事の紹介や現場で生き生きと活躍している管理栄養士の紹介などを行うことが、管理栄養士に対する意識を高めるためには重要であると考えられた。

国立教育政策研究所による「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査」では、進学希望の高校3年生が第一志望校を選ぶ上で最も重視することは、「自分のやりたい勉強ができること」(65.5%)であり、次いで「将来希望する職業に役立つ知識や技術が身につくこと」(45.6%)、「資格が取得できること」(37.0%)であることが示されている⁷⁾。本研究では、「食事や栄養に関心があるから」(78.7%)、「国家資格が取得しなかったから」(61.7%)との回答が多かった。これらのことより、養成校を志望する者は社会的地位や職業の安定性を求めるものが多い傾向にあると考えられた。一方、「現場の管理栄養士への憧れから」は1割程度と少なかった。入学前に憧れていた管理栄養士がいた者は、養成校を志望した理由として「現場の管理栄養士への憧れ」と回答した者が多かったことから、高校生以下の児童・生徒の目標となるような管理栄養士が出現することは、管理栄養士養成にとっても望ましいことであると示唆された。

養成校を受験した際の志望度は、養成校が第一志望であったものが95%を超えており、養成校を受験する者は管理栄養士に対する志望度が高いものであると考えられた。養成校を選択する際に最も重視した項目は「管理栄養士国家試験の合格率の高さ」であり、管理栄養士を目指す学生にとって合格率が重要視されていることが明らかとなった。次いで多かった志望する際に重要視する項目は「立地の良さ」であった。一方、「教えを受けたい教員の存在」といった、養成校に入学した後どのような教員から教育を受けたいのか、教育内容を重要視した者は非常に低い状況であった。このことから、養成校を受験する者は管理栄養士への志望度は高いが、教員または教育内容よりも国家試験の合格率や立地といった「国家資格の取得」や「通いやすさ」を重要視していることが示唆された。

3. 臨地実習に対する認識・評価

本研究の対象者は大学 2 年次からコロナ禍であったことから、臨地実習に行った学年に関わらず、臨地実習は新型コロナウイルスの影響を受けていたと考えられる。臨地実習の実施状況は、給食経営管理、臨床栄養に関する臨地実習では約 25%、公衆栄養に関する臨地実習では約 50%が「オンラインのみ」もしくは「オンラインと対面の併用」での実施であった。

厚生労働省の管理栄養士養成施設における臨地実習及び栄養士養成施設における校外実習要領より、管理栄養士養成施設における臨地実習の種類及び単位数は、「臨床栄養学」「公衆栄養学」「給食経営管理論」で 4 単位以上とする。なお、「給食の運営」に係る校外実習の 1 単位を含むものとする。」とされている。また、栄養士養成施設では「給食の運営」について 1 単位以上とする。」とされており、卒業と同時に栄養士の資格を得るためには、「給食経営管理」の臨地実習を 1 単位以上取得している必要がある⁸⁾。本研究における、臨地実習の取得単位数の回答結果より、給食経営管理に関する臨地実習を「0 単位」と回答した者が 2 名おり、それらの者は現在管理栄養士の国家資格を有している者であったことから、誤った回答をしていたことが明らかとなった。臨地実習の取得単位数の問いについて「わからない」と回答した者が全ての臨地実習で、それぞれ 15%以上存在したことから、自分が臨んだ臨地実習において取得単位数を理解していない者が多くいることが明らかとなった。そこで、各養成校のシラバスに記載されている取得可能単位数と対象者による回答が一致しているかを確認した結果、137 名が 1 科目以上誤っているもしくはわからないと回答していた。本研究の対象養成校の中には、シラバス等で臨地実習の単位数の詳細な情報を明確に記載していない養成校が 9 校あり、それらの養成校の中には単位数のみならず臨地実習の目的も明確に分けずにまとめて記載していたり、各臨地実習のシラバスに全く同じ内容の目的・ねらいが記載されていたりすることが見受けられた。シラバスは学生に講義の目的やねらいを知らせるだけでなく、教員と学生が共通認識をもって講義に臨むための重要なコンテンツである。臨地実習の単位数を正確に回答できない者は、自分が臨んだ臨地実習がどの分野で、何を学ぶために実施しているのか理解できていないと考え

られるため、養成校では、学生に対して臨地実習の目的の提示および明確に伝えるなど、学生の臨地実習に対する理解を高めていくための働きかけが必要であることが示唆された。公衆栄養に関する臨地実習では、0 単位と回答した者が 61 名と多く、これらの方は公衆栄養の臨地実習に行っていない者であると考えられた。公益社団法人日本栄養士会が公表している 2019 年度管理栄養士養成施設卒業者の就職状況では、行政の就職率は 3.2%であることが示されている⁹⁾。公衆栄養に関する臨地実習は管理栄養士、栄養士の資格を得るために必須ではないこと、行政への就職希望者が少ない現状から、養成校側も公衆栄養に関する臨地実習を必修にせず、希望する者のみが履修できるような状況にある。しかし、本研究の結果より、公衆栄養に関する臨地実習に行った者においては必要性を感じている者が多かったこと、管理栄養士の魅力をより感じるためには「臨地実習の施設の充実」を求めていること、管理栄養士として卒業後勤務する上で、自分が勤務する職域のみならず様々な職域で管理栄養士がどのような業務を行っているかについて理解することは重要であると考えられることなどから、公衆栄養学に関する臨地実習も履修できるようにするなど、可能な限り幅広い施設で臨地実習を実施することが望ましいと示唆された。

4. 卒業した養成校に対する評価・意見

管理栄養士を養成するためのカリキュラムの問題点において、「時間割の過密さ」を回答した者は 34.8%と最も多かった。文部科学省の大学設置基準において、大学の卒業要件は、大学に 4 年以上在学し、124 単位以上を修得することとされている⁹⁾。栄養士施行令による管理栄養士養成校指定規則より、管理栄養士養成施設の専門基礎分野・専門分野の科目は計 82 単位であり¹⁾、大学の卒業要件単位数の 66%を占めている。管理栄養士の国家試験を受験するためにこれらの科目を取得することは必須であることから、一般大学生よりも選択科目が少なく、また、臨地実習や校外実習は 3 年次後期から 4 年次にかけて行われることから、時間割が過密で多忙だと感じる学生が多いと考えられた。

また、養成校を卒業した者が、管理栄養士資格または管理栄養士に対してより魅力を感じてもらえるような教育や機会は

何か質問したところ、7割程度が「現場の管理栄養士とのふれあい」と回答し、4割程度が「臨地実習の施設の充実」、「座学ではない授業の充実」と回答した。養成校入学前には「憧れの管理栄養士」はほとんど存在しなかったことから、管理栄養士の将来像をイメージすることは難しい状況にあると考えられる。そのような状況で管理栄養士の魅力を感じることは難しいため、「現場での管理栄養士とのふれあい」が管理栄養士の魅力を感じるためには必要な事柄であると回答したと考えられる。管理栄養士資格の存在を知る時期は中学生であったことから、小学校・中学校の児童・生徒およびその保護者に対して、現場で活躍している栄養士とのふれあいを持たせるような機会を設定することが、管理栄養士資格の魅力を広く認識させることにつながると示唆された。

5. 本研究の限界

他大学での教育内容は、一般的には養成校に在学している間は知る機会は少なく、養成校を卒業し、職場や大学院等への進学において他大学の卒業生と触れ合う機会が多くなるにつれて、自分自身が卒業した養成校と他大学との教育内容等の違いを理解するようになる。本研究は、養成校を卒業して1年以内の者を対象に調査を実施したことから、対象者自身が卒業した養成校での教育内容等を俯瞰して捉え、改善点などを示すことは難しいと考えられる。今後さらに対象者の年齢の幅を広げた研究や、管理栄養士を養成する教員・教育者の立場からの評価や意見、養成校を卒業したが管理栄養士の国家資格を有していない者、資格を使用せずに勤務している者への調査など幅広い意見を集め、総合的に養成校の改善に努めていく必要があると考える。

E. 結論

本研究では、養成校を卒業した者を対象として、管理栄養士の認知度、養成校入学のきっかけ、および臨地実習の状況を把握し、養成校における教育の更なる充実化を図るための方策案を作成することを目的とした。

管理栄養士の存在は中学生の時に把握する者が最も多かったこと、憧れの管理栄養士の存在は非常に低かったこと、養成校を卒業した者が、現在養成校に在学している者が管理栄養士の魅力を感じる方策として7割程度が「現場の管理栄養士とのふれあい」

と回答したことなどから、中学生や小学生に対して、現場で生き生きと管理栄養士の存在を示すことが管理栄養士に対する認識を高めること、養成校においても、積極的に現場で活躍している管理栄養士と触れ合う機会を設定することが、管理栄養士が管理栄養士資格に魅力を感じるができることなどが考えられた。また、入学する養成校は、当該大学の国家試験合格率を最も重要視しているのに対し、教えを受けたい教員の存在などはほとんど意識されていないことから、教育内容よりも国家試験の取得が入学の第一義となっていることが明らかとなった。

臨地実習に対する認識・評価では、オンラインのみ、オンラインと対面の併用による実施は、対面での実施に比べ満足度および現在の進路への影響が低いことが明らかとなったことから、臨地実習は対面での実施が望ましいこと、対面で実施することが困難な状況下では、教育方法や教育内容を十分に検討することが求められると示唆された。

F. 謝辞

本研究を行うにあたり、ご協力いただきました対象者の皆様に感謝申し上げます。

G. 研究発表

1. 論文発表
なし

2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

引用文献

- 1) 厚生労働省：栄養士法
(https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=78317000&dataType=0&pageNo=1)
- 2) 厚生労働省：管理栄養士・栄養士を取り巻く状況と管理栄養士国家試験出題基準（ガイドライン）改定の歩み
(<https://www.mhlw.go.jp/content/10901000/000358651.pdf>)
- 3) 厚生労働省：管理栄養士養成施設設定員数
(<https://www.mhlw.go.jp/content/000793012.pdf>)

- 4) 厚生労働省: 栄養士免許交付数の推移
(<https://www.mhlw.go.jp/content/000785418.pdf>)
- 5) 特定非営利活動法人日本栄養改善学会.
「教育養成領域での人材育成」報告書.
2019
(http://jsnd.jp/img/H30_houkoku_all4.pdf)
- 6) 公益社団法人日本栄養士会: 初めての就職ガイド
(<https://www.dietitian.or.jp/students/job-guide/>)
- 7) 国立教育政策研究所: キャリア教育に関する総合的研究 第一次報告書. 2020年3月
- 8) 厚生労働省: 管理栄養士養成施設における臨地実習及び栄養士養成施設における校外実習について
(https://kouseikyoku.mhlw.go.jp/kantoshinetsu/shokan/kankeihourei/documents/h14_0401.pdf)
- 9) 文部科学省: 大学設置基準
(<https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=331M50000080028>)

表 1 調査対象者の基本情報および勤務状況

	人数(人)	割合(%)
性別 (n=371)		
男性	20	5.4
女性	350	94.3
その他	1	0.3
管理栄養士資格の有無 (n=371)		
あり	360	97
なし	11	3
管理栄養士国家試験の得点 (n=255)		
180点以上	7	2.7
160～179点	78	30.6
140～159点	135	52.9
120～139点	27	10.6
120点未満	8	3.1
現在の職域 (n=371)		
医療	70	18.9
行政	5	1.3
食育・教育	16	4.3
高齢者施設	32	8.6
給食	189	50.9
企業	36	9.7
フリーランス	1	0.3
大学院進学	11	3
その他	11	3
現在の職域で求められる資格 (n=371)		
管理栄養士	267	72
栄養士	52	14
必要なし	52	14

表 2 管理栄養士養成大学の特徴

	人数(人)	割合(%)
養成施設の種類(国公立 or 私立)(n=371)		
国公立	54	14.6
私立	317	85.4
養成施設の種類(共学 or 女子大学)(n=371)		
共学	234	63.1
女子大学	137	36.9
定員数 (n=371)		
40人以下	81	21.8
41～80人以下	130	35
81～120人以下	49	13.2
121人以上	111	29.9
管理栄養士国家試験受験者率 (n=371)		
100%以上	201	54.2
90～100%	59	15.9
80～89%未満	53	14.3
70～79%未満	25	6.7
69%以下	33	8.9
管理栄養士国家試験合格率 (n=371)		
100%	88	23.7
90～99%	226	60.9
80～89%	43	11.6
70～79%	12	3.2
69%以下	2	0.5
管理栄養士国家試験受験資格が卒業要件 (n=371)		
卒業要件である	201	54.2
卒業要件でない	170	45.8
管理栄養士国家資格取得のための臨地実習単位数 (n=371)		
4単位	339	91.4
5単位以上	32	8.6

表3 管理栄養士養成大学入学前の管理栄養士に対する意識

	人数(人)	割合(%)
管理栄養士の存在をいつ知りましたか。(n=371)		
小学生	26	7.0
中学生	110	29.6
高校1年生	85	22.9
高校2年生	84	22.6
高校3年生	61	16.4
その他	5	1.3
管理栄養士を知るきっかけは「どこから」または「誰から」でしたか。(n=371)		
保護者から	123	33.2
インターネットの情報から	60	16.2
入試関連資料から	43	11.6
高校の先生から	42	11.3
栄養教諭や学校栄養職員から	23	6.2
マスメディアに出演している管理栄養士を見て	23	6.2
病院などの現場の管理栄養士から	19	5.1
本や雑誌から	16	4.3
SNSの情報から	4	1.1
その他	18	4.9
大学に入学する前に懂れていた管理栄養士はいましたか。(n=371)		
はい	49	13.2
いいえ	322	86.8
管理栄養士資格の取得を誰かに勧められましたか。(n=371)		
はい	165	44.5
いいえ	206	55.5
管理栄養士資格は誰に勧められましたか。(複数回答)(n=165)		
保護者	144	87.3
高校の先生	36	21.8
大学の先生	17	10.3
親戚	7	4.2
知人	6	3.6
現場の管理栄養士	4	2.4
小・中学校時代の栄養教諭や学校栄養職員	3	1.8
部活の関係	1	0.6
その他	3	1.8

	人数(人)	割合(%)
管理栄養士養成校への入学を志望した時期はいつ頃でしたか。(n=371)		
小学生	3	0.8
中学生	48	12.9
高校1年生	63	17.0
高校2年生	104	28.0
高校3年生	148	39.9
その他	5	1.3
管理栄養士養成校を志望した理由は何ですか。(複数回答)(n=371)		
国家資格が取得したかったから	229	61.7
現場の管理栄養士への憧れから	40	10.8
自分・家族の体調不良・病気の経験から	72	19.4
食事や栄養に関心があるから	292	78.7
スポーツ栄養に関心があるから	102	27.5
病院で働きたいから	42	11.3
食品企業に就職したいから	42	11.3
人の健康や社会に貢献できるから	95	25.6
就職に有利と考えたから	52	14
取得したい資格に管理栄養士免許が必須だったから	6	1.6
栄養教諭になりたいから	14	3.8
小・中学校で働きたいから	5	1.3
なんとなく	25	6.7
その他	3	0.8
管理栄養士養成校に入学する前に、管理栄養士としてどのような進路を考えていましたか。(n=371)		
医療	132	35.6
行政	16	4.3
食育・教育	43	11.6
高齢者施設	9	2.4
給食	33	8.9
企業	69	18.6
フリーランス	3	0.8
大学院進学	3	0.8
特になし	52	14.0
スポーツ関係	10	2.7
障害者施設	1	0.3

表 4 管理栄養士養成大学の受験の状況

	人数(人)	割合(%)
大学等を受験した際、管理栄養士養成校は第一志望でしたか。(n=371)		
はい	353	95.1
いいえ	18	4.9
第一志望ではない場合、第一志望の学部はどこでしたか。(n=18)		
医学部	1	5.6
薬学部	3	16.7
看護学部	1	5.6
農学部	2	11.1
その他	11	61.1
管理栄養士養成校の中でも入学した大学に決めた理由は何ですか。(n=371)		
学力の高さ	21	5.7
管理栄養士国家試験の合格率の高さ	144	38.8
立地の良さ	41	11.1
教えを受けたい教員の存在	14	3.8
学費の安さ	22	5.9
校舎や設備の良さ	23	6.2
入試の難易度	21	5.7
家族や教員の勧め	24	6.5
就職率の高さ	15	4.0
入学した管理栄養士養成校しか合格しなかったから	26	7.0
その他	20	5.4
高校時代、理数系科目は得意でしたか。(n=371)		
はい	199	53.6
いいえ	172	46.4
高校時代、文系科目は得意でしたか。(n=371)		
はい	116	31.3
いいえ	255	68.7
大学受験において、「文系」と「理系」のどちらでしたか。(n=371)		
文系	68	18.3
理系	217	58.5
どちらともいえない	86	23.2

表 5 臨地実習の実施方法、認識している履修単位数および現在の進路への影響

	給食経営管理		臨床栄養		公衆栄養	
	人数	%	人数	%	人数	%
実習の実施方法						
オンラインのみ	47	12.7	53	14.3	134	36.1
対面のみ	274	73.9	277	74.7	187	50.4
オンラインと対面と併用	50	13.5	41	11.1	50	13.5
認識している履修単位数						
0単位	2	0.5	3	0.8	61	16.4
1単位	210	56.6	26	7.0	215	58.0
2単位	94	25.3	236	63.6	34	9.2
3単位	3	0.8	24	6.5	0	0
4単位	6	1.6	11	3.0	1	0.3
5単位	0	0	2	0.5	0	0
6単位	0	0	12	3.2	0	0
7単位以上	0	0	0	0	0	0
わからない	56	15.1	57	15.4	60	16.2
現在の進路への影響						
よい影響をおよぼした	222	59.8	218	58.8	115	31.0
悪い影響をおよぼした	16	4.3	31	8.4	12	3.2
影響はなかった	133	35.8	122	32.9	244	65.8

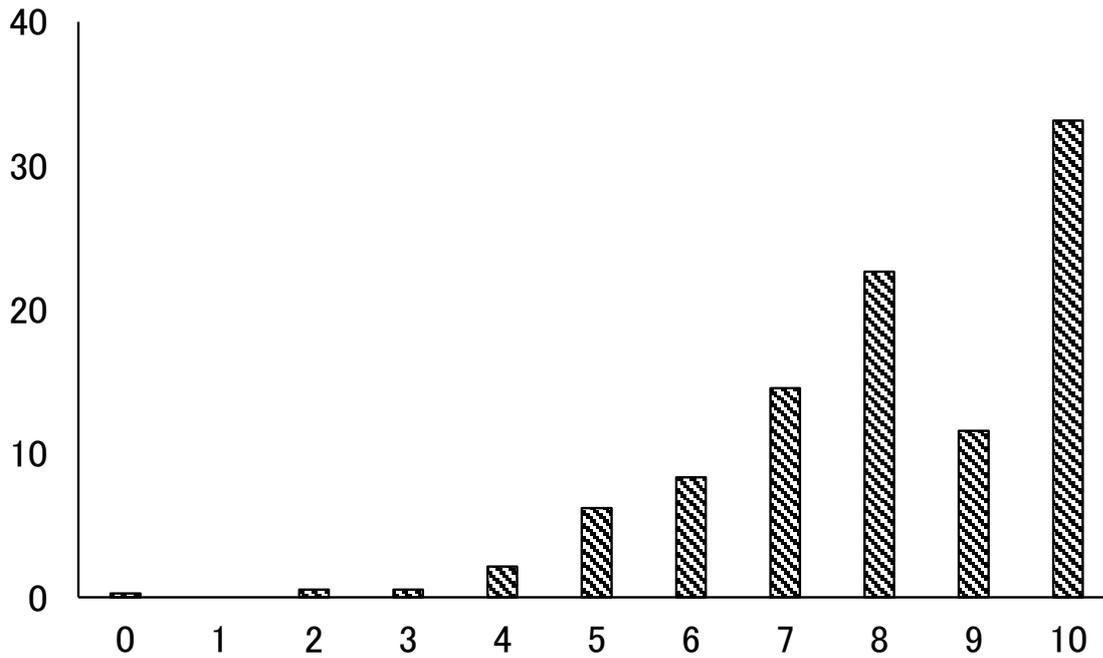


図1 卒業した管理栄養士養成施設の満足度

表6 管理栄養士養成大学に対する意見

意見	人数	%
時間割の過密さ	129	34.8
養成校での実習・演習の授業の少なさ	46	12.4
教員の教育スキル(質)の低さ	41	11.1
国家試験対策が中心となる教育	43	11.6
臨地実習の期間の短さ	39	10.5
養成校での臨地実習に必要となる授業の質の低さ	35	9.4
教育内容の質の低さ	24	6.5
臨地実習の実習施設における教育内容の質の低さ	16	4.3
臨地実習の実習施設における管理栄養士の教育スキル(教育の質)の低さ	14	3.8
カリキュラムの質の低さ	10	2.7
教員の教育に対する熱意の低さ	10	2.7
教員の管理栄養士という資格に対する理解の低さ	5	1.3
教員の管理栄養士という資格に対する意識の低さ	3	0.8
教員の管理栄養士という資格に対する認識の低さ	2	0.5
今のままでよい	149	40.2

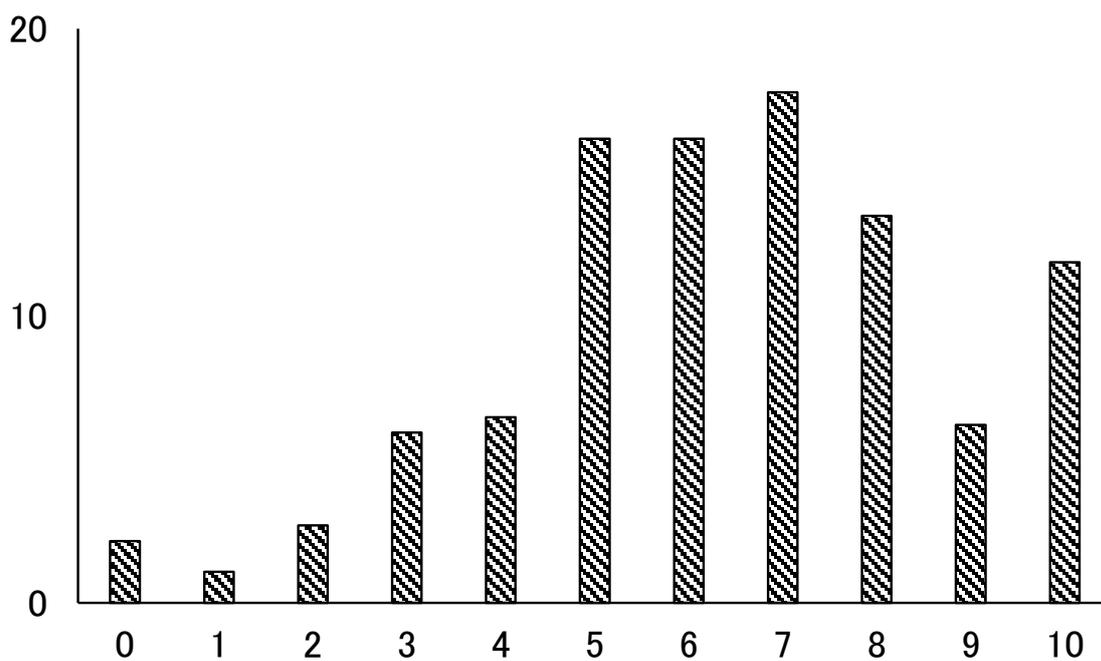


図2 現在の進路の満足度

表7 管理栄養士の魅力を感じるための授業・機会の提案

	人数(人)	割合(%)
現場の管理栄養士とのふれあい	259	69.8
臨地実習の施設の充実	158	42.6
座学ではない授業の充実	153	41.2
アクティブラーニングを取り入れた授業の充実	59	15.9
学内実習の充実	47	12.7
教員の質の向上	40	10.8
カリキュラムの改善	36	9.7
卒業論文などの研究に関する授業の充実	29	7.8
臨地実習期間の延長	25	6.7
その他	7	1.9

【参考資料】本研究の web 調査で用いた調査項目

1. 管理栄養士養成施設に入学する前について

(1) あなたは管理栄養士資格の存在をいつ知りましたか。最も当てはまるものを一つ選択してください。

- ① 小学生
- ② 中学生
- ③ 高校 1 年生
- ④ 高校 2 年生
- ⑤ 高校 3 年生
- ⑥ その他

(2) あなたは、管理栄養士資格の存在を知るきっかけは「どこから」または「誰から」でしたか。最も当てはまるものを一つ選択してください。

- ① 高校の先生から
- ② 栄養教諭や学校栄養職員から
- ③ 保護者から
- ④ マスメディアに出演している管理栄養士を見て
- ⑤ 病院などの現場の管理栄養士から
- ⑥ 本屋雑誌から
- ⑦ インターネットの情報から
- ⑧ SNS の情報から
- ⑨ 入試関連資料から
- ⑩ その他

(3) あなたは、大学に入学する前に懂っていた管理栄養士はいましたか。

- ① はい
- ② いいえ

(4-1) あなたは、管理栄養士資格の取得を誰かに勧められましたか。

- ① はい
- ② いいえ

(4-2) (4-1) で「はい」を選択した方に伺います。管理栄養士資格の取得は、誰かに勧められましたか。最も当てはまるものを全て選択してください。(複数回答)

- ① 保護者
- ② 親戚
- ③ 高校の先生
- ④ 大学の先生
- ⑤ 現場の管理栄養士
- ⑥ 小学校・中学校時代の栄養教諭や学校栄養職員
- ⑦ 知人
- ⑧ 部活の関係

⑨ その他

(5) あなたが管理栄養士養成施設への入学を志望した時期はいつ頃でしたか。最も当てはまるものを一つ選択してください。

- ① 小学生
- ② 中学生
- ③ 高校1年生
- ④ 高校2年生
- ⑤ 高校3年生
- ⑥ その他

(6) あなたが入学する前に管理栄養士養成施設を志望した理由のうち、当てはまるものを全て選択してください。(複数回答)

- ① 国家資格が取得したかったから
- ② 現場の管理栄養士への憧れから
- ③ 自分・家族の体調不良・病気の経験から
- ④ 食事や栄養に関心があるから
- ⑤ スポーツ栄養に関心があるから
- ⑥ 病院で働きたいから
- ⑦ 食品企業に就職したいから
- ⑧ 人の健康や社会に貢献できるから
- ⑨ 就職に有利と考えたから
- ⑩ 取得したい資格に管理栄養士免許が必須だったから
- ⑪ 栄養教諭になりたいから
- ⑫ 小・中学校で働きたいから
- ⑬ なんとなく
- ⑭ その他

(7-1) あなたが大学を志望した際、管理栄養士養成施設は第一希望でしたか。

- ① はい
- ② いいえ

(7-2) (7-1)で「いいえ」と回答した方に伺います。第一希望の学部はどこでしたか。最も当てはまるものを一つ選択してください。

- ① 医学部（管理栄養士養成施設を除く）
- ② 歯学部
- ③ 薬学部
- ④ 看護学部
- ⑤ その他

(8) あなたが管理栄養士養成施設の中でも入学した大学に決めた理由として、最も当てはまるものを一つ選んでください。

- ① 学力の高さ

- ② 管理栄養士国家試験の合格率の高さ
- ③ 立地の良さ
- ④ 教えを受けたい教員の存在
- ⑤ 学費の安さ
- ⑥ 校舎や設備のよさ
- ⑦ 入試の難易度
- ⑧ 家族や教員の勧め
- ⑨ 就職率の高さ
- ⑩ 入学した管理栄養士養成施設しか合格しなかったから
- ⑪ その他

(9) あなたは、高校時代、理数系科目は得意でしたか。

- ① はい
- ② いいえ

(10) あなたは、高校時代、文系科目は得意でしたか。

- ① はい
- ② いいえ

(11) あなたは、大学受験において「文系」と「理系」のどちらでしたか。

- ① 文系
- ② 理系
- ③ どちらともいえない

(12) あなたは、管理栄養士養成施設に入学する前に、管理栄養士としてどのような進路を考えていましたか。最も当てはまるものを一つ選んでください。

- ① 医療
- ② 行政
- ③ 食育・教育
- ④ 高齢者施設
- ⑤ 給食
- ⑥ 企業
- ⑦ フリーランス
- ⑧ 大学院進学
- ⑨ 特になし
- ⑩ その他

2.管理栄養士養成施設の教育について

(1) 給食経営管理論に関する臨地実習

1) あなたは、給食経営管理論に関する臨地実習は、どのような方式で実習を行いましたか。一つ選んでください。

- ① オンラインのみで行った

② 実習先の施設に出向いて（対面で）行った

③ オンラインと対面を併用して行った

2) 給食経営管理論に関する臨地実習の満足度について、「全く満足していない」は0、「非常に満足」は10として、0から10の中から最も当てはまるものを一つ選択してください。

全く満足 していない←	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	非常に満足 →10
<input type="radio"/>											

3) 給食経営管理論に関する臨地実習は、あなたの現在の進路を決定するにあたり、どのような影響をおよぼしましたか。

① よい影響をおよぼした

② 悪い影響をおよぼした

③ 影響はなかった

4) 給食経営管理論に関する臨地実習で取得した単位を一つ選んでください。

① 0単位

② 1単位

③ 2単位

④ 3単位

⑤ 4単位

⑥ 5単位

⑦ 6単位

⑧ 7単位以上

⑨ 分からない

(2) 臨床栄養学に関する臨地実習

1) 臨床栄養学に関する臨地実習で取得した単位を一つ選んでください。

① 0単位

② 1単位

③ 2単位

④ 3単位

⑤ 4単位

⑥ 5単位

⑦ 6単位

⑧ 7単位以上

⑨ 分からない

2) 1) で「0単位」以外を選択した方に伺います。あなたは、臨床栄養学に関する倫理実習は、どのような方式で実習を行いましたか。一つ選んでください。

① オンラインのみで行った

② 実習先の施設に出向いて（対面で）行った

③ オンラインと対面を併用して行った

3) 臨床栄養学に関する臨地実習の満足度について、「全く満足していない」は0、「非常に満足」は10として、0から10の中から最も当てはまるものを一つ選択してください。

全く満足していない ← 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 非常に満足 → 10

4) 臨床栄養学に関する臨地実習は、あなたの現在の進路を決定するにあたり、どのような影響をおよぼしましたか。

- ① よい影響をおよぼした
- ② 悪い影響をおよぼした
- ③ 影響はなかった

(3) 公衆栄養学に関する臨地実習

1) 公衆栄養学に関する臨地実習で取得した単位を一つ選んでください。

- ① 0単位
- ② 1単位
- ③ 2単位
- ④ 3単位
- ⑤ 4単位
- ⑥ 5単位
- ⑦ 6単位
- ⑧ 7単位以上
- ⑨ 分からない

2) 1)で「0単位」以外を選択した方に伺います。あなたは、公衆栄養学に関する倫理実習は、どのような方式で実習を行いましたか。一つ選んでください。

- ① オンラインのみで行った
- ② 実習先の施設に出向いて（対面で）行った
- ③ オンラインと対面を併用して行った

3) 公衆栄養学に関する臨地実習の満足度について、「全く満足していない」は0、「非常に満足」は10として、0から10の中から最も当てはまるものを一つ選択してください。

全く満足していない ← 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 非常に満足 → 10

4) 公衆栄養学に関する臨地実習は、あなたの現在の進路を決定するにあたり、どのような影響をおよぼしましたか。

- ① よい影響をおよぼした
- ② 悪い影響をおよぼした

③ 影響はなかった

(4) あなたが過ごした管理栄養士養成施設におけるカリキュラムについて伺います。管理栄養士を養成するためのカリキュラムの問題点について、当てはまるものを全て選択してください。(複数回答)

- ① 管理栄養士養成施設におけるカリキュラムの質の低さ
- ② 管理栄養士養成施設における教育内容の低さ
- ③ 管理栄養士養成施設における教員の教育スキル(質)の低さ
- ④ 管理栄養士養成施設における教員の教育に対する熱意の低さ
- ⑤ 管理栄養士養成施設における教員の管理栄養士という資格に対する理解の低さ
- ⑥ 管理栄養士養成施設における教員の管理栄養士という資格に対する意識の低さ
- ⑦ 管理栄養士養成施設における教員の管理栄養士という資格に対する認識の低さ
- ⑧ 管理栄養士養成施設での実習・演習の授業の少なさ
- ⑨ 管理栄養士養成施設での臨地実習に必要な授業の質の低さ
- ⑩ 臨地実習の実習施設における教育内容の質の低さ
- ⑪ 臨地実習の実習施設における管理栄養士の教育スキル(教育の質)の低さ
- ⑫ 時間割の過密さ
- ⑬ 国家試験対策が中心となる教育
- ⑭ 臨地実習の期間の短さ
- ⑮ 今のままでよい(特になし)
- ⑯ その他

4.卒業後の進路について

(1) 現在のあなたの進路について、一つ選択してください。

- ① 医療
- ② 行政
- ③ 食育・教育
- ④ 高齢者施設
- ⑤ 給食
- ⑥ 企業
- ⑦ フリーランス
- ⑧ 大学院進学
- ⑨ その他

(2) あなたは、現在の就職先で、管理栄養士・栄養士として働いていますか。あるいは、管理栄養士資格・栄養士資格を有することが条件で就職しましたか。該当する者を一つ選択してください。

- ① 管理栄養士(有することが条件)として働いている
- ② 栄養士(有することが条件)として働いている
- ③ 必要なし

(3) あなたは、現在の進路について、どの程度満足していますか。「全く満足していない」は0、「非常に満足」は10として、0から10の中から最も当てはまるものを一つ選択してください。

全く満足していない ← 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 非常に満足 → 10

(4) あなたは、卒業した大学に入学・卒業して、よかったですか（満足していますか）。「全く満足していない」は0、「非常に満足」は10として、0から10の中から最も当てはまるものを一つ選

全く満足していない ← 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 非常に満足 → 10

択してください。

(5)管理栄養士養成施設において、これからの在校生（後輩）が管理栄養士資格または管理栄養士に対して魅力を感じるために、どのような授業や機会（チャンス）があることが望ましいと感じますか。当てはまるものを全て選択してください。（複数回答）

- ① 臨地実習の施設の充実
- ② 臨地実習期間の延長
- ③ 現場の管理栄養士とのふれあい
- ④ 座学ではない授業の充実
- ⑤ グループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等のアクティブ・ラーニングを取り入れた授業の充実
- ⑥ 学内実習の充実
- ⑦ 教員の質の向上
- ⑧ カリキュラムの改善
- ⑨ 卒業論文などの研究に関する授業の充実
- ⑩ その他

5.あなた自身のことについて

(1) あなたの性別を教えてください。

- ① 男性
- ② 女性
- ③ その他

(2) 2022年4月1日時点での、あなたの年齢を教えてください。

(3) あなたが卒業した大学（管理栄養士養成施設名）をお答えください。

(4) あなたは、管理栄養士資格を取得していますか。

(5) あなたが受験した管理栄養士国家試験の結果について伺います。自己採点を行った結果（点数）を教えてください。お答えいただくことが難しい場合は、無理にお答えいただかなくても構いません。（任意）